

地球惑星科学専攻 地球科学輻合部特別講演会

1) フィリピン海プレートの沈み込みに伴う西南日本下の温度分布について — 1946年南海地震の粘弾性変形計算への適用と深部低周波地震の地域性と関連性 —

吉岡 祥一 氏(九州大学理学研究院)

内容:

本講演は2部に分けられる。前半は、数値シミュレーションによって得られたフィリピン海プレートの沈み込みに伴う西南日本下の温度分布を示し、それに基づいて計算された温度・深さ依存のマンツルの粘性率分布が、1946年南海地震の粘弾性変形に及ぼす影響について講演する。後半は、温度分布と深部低周波地震の地域性に関する講演を行う。

2) 媒質の不均質性を考慮した準静的な地震サイクルのシミュレーションに向けて

兵藤 守 氏(地球シミュレータセンター)

内容:

近年、摩擦構成則とプレート運動を組み合わせた大規模な地震発生シミュレーション研究が精力的になされており、地震の再来間隔・破壊領域などに関しては現実の地震発生パターンを定性的に再現できる段階にきている。しかし、シミュレーション結果を現実の地震発生予測に役立てるには、媒質の不均質性を導入するなどのシミュレーション方法の高度化が必要である。

このため、我々のグループでは並列有限要素法(GeoFEM)と既存の地震サイクルシミュレーション手法をカップルさせることにより、弾性・粘弾性不均質構造の影響を地震サイクルシミュレーションに組み込むための研究開発を行っている。本発表では、この取り組みを紹介する予定である。

8月26日(火)16:00~18:00

理学研究科6号館 201号室

問い合わせ先: 平原 和朗